

# 日蓮大聖人御書全集

じゆふくじ

ごじよう

## 寿福寺への御状

新版  
862  
〜  
863

じゆふくじ

じじよう

# 寿福寺への御状

ぶんえい

ねん

文永5年('68)

がつ

10月11日

にち

47歳

さい

寿福寺

じゆふくじ

ふうぶん

風聞のごとくんば、蒙古国の簡牒、去ぬる正月十八日

もうここく

かんちよう

い

しょうがつじゆうはちにち

とうらい

そうら

お

せんねんにちれん

かんが

たしかに到来し候い畢わんぬ。しかれば、先年日蓮が勘え

しよ

りつしようあんこくろん

ふごう

おそ

にちれん

し書の立正安国論のごとく符合せしむ。恐らくは日蓮は

みぼう

し

もの

未萌を知る者なるか。

あん

ねんぶつ

しんごん

ぜん

りつとう

あくほう

これをもつてこれを按ずるに、念仏・真言・禅・律等の悪法、

いってん

じゆうまん

じようげ

し

ゆえ

一天に充滿して上下の師となるの故に、かくのごとき

たこくしんぴつなんお

他国侵逼難起これるなり。

ほつけふしん とが

みないちどう

ごしよう

むけんじごく

お

法華不信の失によつて、皆一同に後生は無間地獄に墮つ

はや じゃけん ひるがえ

だるま ほう

す

いちじょうしようほう

べし。早く邪見を翻し、達磨の法を捨てて、一乗正法に

き

帰せしむべし。

かたがた ひろう

そうろう

そうそう

しかるあいだ、方々へ披露せしめ候のところなり。早々

いっしょ

あつ

ごひようぎあ

そうろう

くわ

たいけつ

とき

一処に集まつて御評議有るべく候。委しくは対決の時を

ご きようきようきんげん

期す。恐々謹言。

ぶんえいごねんじゆうがつじゆういちにち

にちれん

かおう

文永五年十月十一日

日蓮

花押

きんじよう じゆふくじじ しおんちゆう

謹上 寿福寺侍司御中